

第49回全国豆類経営改善共励会の結果について

(公財)日本豆類協会

令和2年産の豆類生産で、特に経営改善の面から先進的で他の範となる豆類生産農家及び生産集団を表彰する第49回全国豆類経営改善共励会（主催：全国農業協同組合中央会、全国新聞情報農業協同組合連合会）の全国審査がオンライン形式にて厳正に実施され、農林水産大臣賞など計9点の受賞者・団体が決定いたしました。

ここでは、応募の状況と受賞者の概要を報告します。

1 応募者と全国審査会の状況

第49回全国豆類経営改善共励会への参加点数は44点で、内訳は大豆家族経営の部20点、大豆集団の部22点、小豆・いんげん・落花生等の部2点でした。都道府県、ブロックの審査を経て、國分牧衛審査委員長ほか8名の審査委員が書面による全国審査を厳正に実施し、大豆家族経営の部、大豆集団の部、小豆・いんげん・落花生等の部の3部門ごとに、農林水産大臣賞等が選定されました。

受賞者は、いずれも高収量・高品質を実現されながらコスト抑制も達成しており、その技術・経営内容は他の模範となると高く評価されました。

2 表彰受賞者

①農林水産大臣賞

(大豆家族経営の部)

松井徳一郎（福岡県宗像市）

(大豆集団の部)

農事組合法人ファームひなの里（山形県西村山郡 河北町）

(小豆・いんげん・落花生等の部)

久保田満雄（北海道帯広市）

②政策統括官賞

(大豆家族経営の部)

相馬亨（栃木県大田原市）
 （小豆・いんげん・落花生等の部）
 小口元範（北海道上川郡美瑛町）

③全国農業協同組合中央会会長賞

（大豆家族経営の部）
 黒澤与典（石川県白山市）

④全国農業協同組合連合会会長賞

（大豆集団の部）
 農事組合法人三水うまいち（福岡県筑紫野市）

⑤日本農業新聞会長賞

（大豆集団の部）
 農事組合法人ファーム小栗山（新潟県見附市）

⑥日本豆類協会理事長賞

（大豆家族経営の部）
 宇野充浩（三重県伊勢市）

● 3 農林水産大臣賞(小豆・いんげん・落花生等の部)：久保田満雄氏の経営概要

久保田氏の経営畑面積は37haで、そのうち小豆の作付けは2.9haです。小豆の多収化に向けた土作りに熱心で、小麦の後には10a当たり3tの堆肥を圃場に投入されておられます。品種としては耐倒伏性の「きたろまん」を用いて、収量は10a当たり404kgと道平均の1.8倍になっています。

小豆の作付けについては8年の間隔を空けることにより、連作の回避を確保されています。なお、除草は5月下旬の農薬散布と6、7月の中耕が柱となっているそうです。実際の作業については、防除にブームスプレーを活用するなど切れ目のない機械化体系を確立することにより、家族2人ほぼ全てをこなされています。今後の展望としては「地域の農地も預かって規模を拡大していきたい」と意気込まれています。



久保田様ご夫妻

● 4 表彰式

第49回全国豆類経営改善共励会の表彰式についても、昨年と同様に関係者が一堂に会して行うのではなく、7月中・下旬にかけて各地域や受賞者の都合に応じて、それぞれ地域農政局、県JA中央会、役場等において各賞の授与が行われました。

なお、第49回全国豆類経営改善共励会の結果については、6月28日の日本農業新聞に掲載され、広く関係者に周知されました。